



**さば水煮**  
**CFP 算定報告書**

**2025. 1. 31**

## 1. CFP 算定の目的

当社は、2022年より開始した中期経営計画「海といのちの未来をつくる MNV2024」のサステナビリティ戦略として9つのマテリアリティ（重点課題）を設定し、そのうちの

一つ、「気候変動問題への対応」において、以下の目標を設定しました：

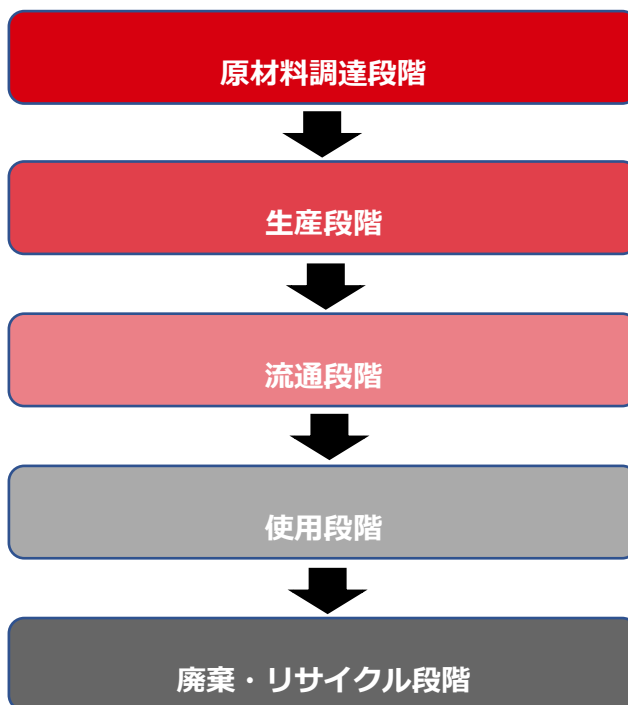
- ・ 2030年度に、CO<sub>2</sub>排出量 30%削減（2017年度比）
- ・ 2050年度に、カーボンニュートラル達成

上記目標のもと、当社製品のライフサイクルにおける GHG（温室効果ガス）排出量の削減を目的に、またお客様に「エコな選択肢」を提供する第一歩として、2023年度に当社代表製品の一つである、「白身魚タルタルソース」を用いて、当該製品のカーボンフットプリントの定量化や可視化に取組みました。2024年度は異なるカテゴリー製品のうち、当社代表製品である、「DHA入りリサーラソーセージ」と「さば水煮」のカーボンフットプリントの算定を実施し、さらなる知見習得に努めました。

## 2. 対象製品と対象とするライフサイクル

対象製品	製品名	さば水煮
	内容量	EO6（製品重量 190 g）
	主原料	国産さば
	算定単位	1 製品
	対象とする 構成要素	製品本体：さば水煮 包装資材：缶胴、缶蓋 輸送資材：段ボール等

対象とするライフサイクル



カットオフの基準  
と対象

排出量のインパクト  
が小さいもの

- ・ 複数の製品に使える消耗品の GHG 排出量
- ・ 原材料を調達する際に活用した輸送資材や梱包資材の GHG 排出量

対象製品に固有化で  
きないもの

- ・ 生産工場などの建設、生産設備の調達・廃棄に係る GHG 排出量
- ・ 事務部門や研究開発部門などの間接部門に係る GHG 排出量

インパクトが小さい  
と推定されるが実態  
の把握が難しいもの

- ・ 消耗品を外部から調達する際の輸送段階の GHG 排出量
- ・ 電力を使用しない、人力による作業

### 3. データ情報

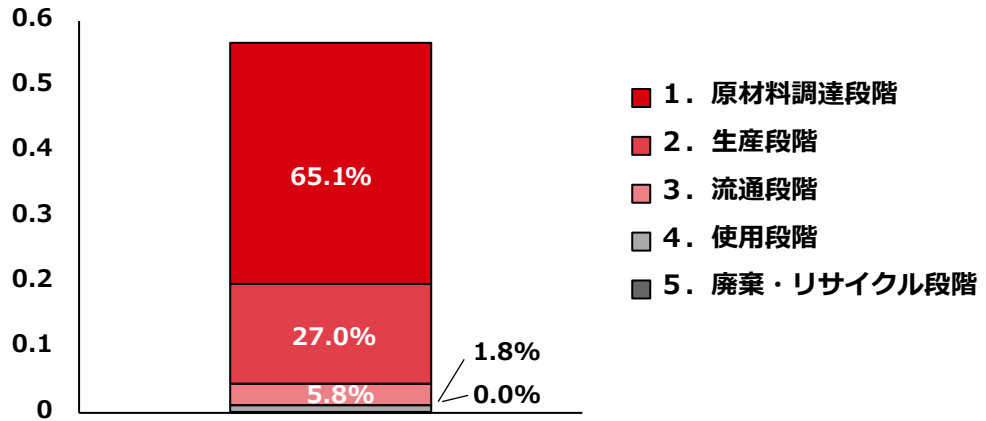
#### データ収集範囲に含まれるプロセス/データ収集項目

原材料調達段階	原材料の生産	原材料使用量
	原材料の輸送	輸送距離、輸送重量
生産段階	製品の生産	エネルギー使用量
	廃棄物処理	廃棄物重量
	廃棄物の輸送	輸送重量
	製品の輸送	輸送距離、輸送重量
流通段階	廃棄物処理	廃棄物（梱包用資材）重量
	廃棄物の輸送	輸送重量
使用段階	製品の使用	加熱調理時のエネルギー使用量
廃棄・リサイクル段階	廃棄物の処理	廃棄物（缶胴、缶蓋）の重量
	廃棄物の輸送	輸送重量

#### 4. 算定結果

本製品の CFP 算定結果は

**0.57 kg-CO<sub>2</sub>eq**



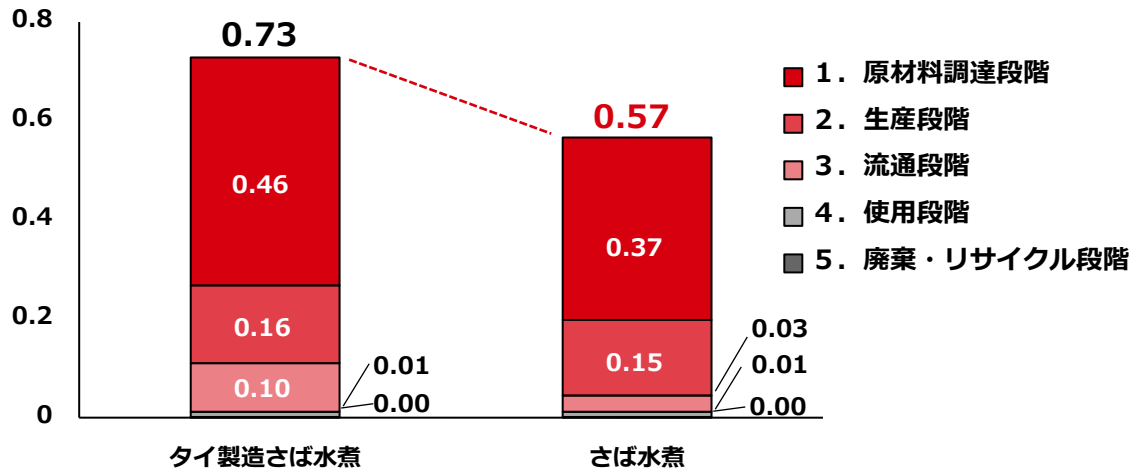
本製品の特長として、**国産のさば**を原材料に用いて日本国内で製造しています。国産の原材料を用いて、日本国内で製造すると、海外での製造と比較して輸送による GHG 排出量を削減することができます。例として、日本で漁獲したさばをタイに輸出し、タイ国内で製造し、それを日本に輸入して販売した場合、CFP 値は 0.73 kg-CO<sub>2</sub>eq となるのに対し、日本で漁獲したさばを日本国内でさば水煮缶に製造した場合、0.57 kg-CO<sub>2</sub>eq となり、ライフサイクル全体における CFP を約 **22%削減**できることが示されました。

この削減量は、100 製品売り上げた場合、自家用車 31.6 km 走行分の GHG 排出量を削減できることを示しています。

(自家用車(4人乗り)の排出原単位を 0.128 kgCO<sub>2</sub>/人 km で計算※)

※出典：国土交通省 HP: 2022 年度運輸部門における二酸化炭素排出量

単位: kg-CO<sub>2</sub>eq



使用した二次データベース：

- ・ IDEA ver.3.4
- ・ 環境省排出原単位データベース ver.3.3
- ・ 環境省「温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度」

設定したシナリオ：

一次データが取得できないまたは取得が困難な場合はシナリオを設定。

- ・ 原材料の輸送距離や製品の輸送距離
- ・ 製品の使用

CFP 算定にあたり、CFP ガイドライン（経産省・環境省）、ISO14067:2018 を参照して自社で算定ルールを作成しております。

## 5. 調査の限界と将来の方向性

算定における課題・  
不確実性

サプライチェーン上流・下流を問わず、GHG の排出削減を CFP の結果に反映させるには、実測値を取得する必要あり。  
(今回はシナリオを設定)

当該製品の包材（梱包用資材）のリサイクル率が不明。

算定のルールの整理と優先すべき収集範囲の整理が必要。

今後の方針

シナリオを設定した部分について、今後取得が可能となった際は実測値を使用。

生産工場・保管倉庫での再生可能エネルギーの導入を促進。